

1 長岡京市の概況

長岡京市の概況

【1】まちづくりの目標

人口減少時代・長寿社会の到来や国際化・情報化の進展、また、地球環境問題や地方分権、行財政改革の推進など長岡京市を取り巻く社会・経済情勢は、大きく変化してきています。

こうした諸課題に的確に対応していくために、「住みたい 住みつづけたい 悠久の都 長岡京」を基本テーマに、教育文化等の充実を図るため、さまざまな施策を進めています。

住みたい 住みつづけたい
悠久の都 長岡京

良質の住み心地
ゆるぎない安心
多彩なにぎわい

【2】地 勢

本市は京都・大阪の二大都市を結ぶ軸の中間に位置し、北は向日市と京都市、南は大山崎町、東は京都市、西は西山山地を介して島本町に接しています。地形の約六割は平坦部で可住地となっており、残りの四割は西山です。中央部は住宅、商業、農業などに利用され、東部は特に工業が盛んです。交通は、南西部を京都縦貫自動車道、中央部を阪急京都線、東部をJR東海道本線、名神高速道路、国道171号が縦走し、平成25年度には阪急「西山天王山駅」が開業するなど、交通の便にも恵まれています。

山城盆地特有の温暖で暮らしやすい気候のもとで、豊かな自然とハイテク技術が共存する、大都市近郊の都市として発展しています。

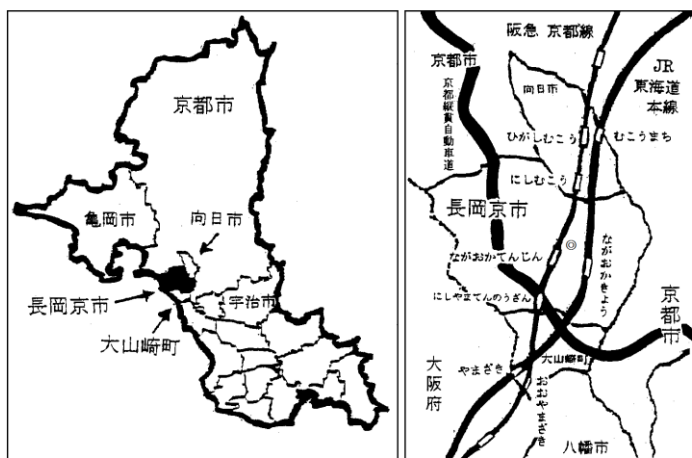


図1 長岡京市周辺都市と長岡京市の交通

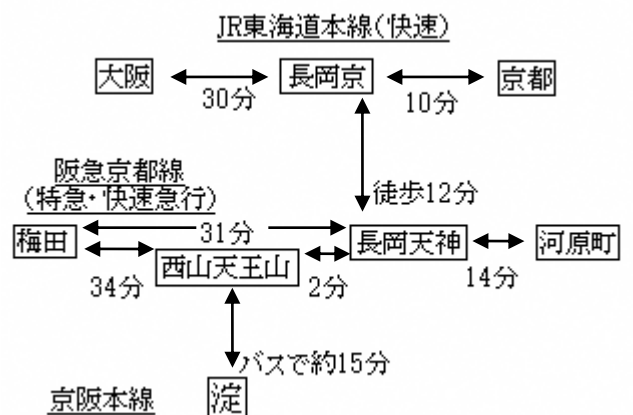
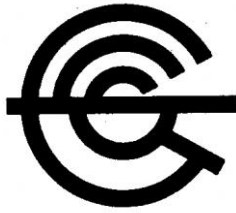


図2 長岡京市の交通アクセス

【3】市 勢



市 章

「長」を図案化し、重なった円は住民の輪と発展する年輪を表わしています。

| | |
|--------------------|------------------------|
| 市制施行 | 昭和 47 年 10 月 1 日 |
| 面 積 | 19.17 k m ² |
| 世 帯 数 | 36,448 世帯 |
| 人 口 | 81,051 人 |
| 男 | 39,227 人 |
| 女 | 41,824 人 |
| (令和 2 年 5 月 1 日現在) | |

【4】沿 革

長岡京市をはじめとする乙訓地域における人々の歴史は、古く 2、3 万年前にさかのぼります。2,300 年前ごろから本格的な農耕が行われるようになり、水田が拓かれて、集落が大きくなっていきました。

3 世紀末になると、巨大な前方後円墳が造られるようになりました。5 世紀中ごろに京都盆地北部に覇権を及ぼした大首長の墓である恵解山古墳、全国的に数少ない巨石古墳で 7 世紀初めに造られた今里大塚古墳など多くの古墳があります。また、継体天皇 12 年 (518) からの 8 年間には、「弟国宮 (おとくにのみや)」がおかれていました。

7 世紀になると豪族たちが古墳に代えて寺院を造るようになり、その名に郡名を冠する乙訓寺などが建立されました。

延暦 3 年 (784)、桓武天皇が水陸の便の良いことを評価して奈良の平城京からこの地に都を遷し、「長岡京」がうまれました。現在の向日市域には宮殿や諸官庁が、長岡京市域には東西市や都人の住居があり、日本の政治・経済の中心地となっていきました。

10 年後に都が平安京へ遷されると長岡京市域はふたたび田園地帯となり、貴族や寺社の荘園がおかれしました。また、都から西国へと通じる山陽道 (のちの西国街道) が乙訓地域を縦断しており、多くの人々が往来する場所でもありました。

中世になると、乙訓地域は「西岡 (にしのおか)」と呼ばれ、京に入る西の玄関口としてしばしば戦乱に巻き込まれました。村々は用水の共同管理を行い、外部からの侵略者を排除するため地域の連帯を深め、江戸時代の村につながる集落へと変貌していきました。

戦国時代も終盤となり、全国が統一へと向かう元亀 2 年 (1571)、細川藤孝が勝龍寺城の大改修を行い、西岡支配の拠点としました。この城は明智光秀の娘、玉 (ガラシヤ) の輿入れを行った場所や、山崎合戦で光秀が最後に入った城としても有名です。

時代は下って戦後の昭和 24 年には、全国的な町村合併に先駆けて新神足村、海印寺村、乙訓村の 3 カ村が合併して長岡町が誕生しました。昭和 30 年代後半からの急激な日本経済の成長に伴い、京都と大阪の中間に位置していることから宅地開発や工場の進出が相次ぎ、静かな農村は急速に都市化が進みました。

このなかで、昭和 47 年 10 月に市制を施行して、全国で 643 番目、京都府下で 10 番目の市となりました。市制を施行した当時は、人口は 5 万 6867 人でしたが、その後人口は増加の一途を

たどり、昭和54年6月に7万人を、昭和61年12月には7万5,000人を超え、順調に増加してきました。時代が昭和から平成になると人口は微増に転じましたが、平成23年5月には8万人を突破しました。

また、昭和58年には中国の寧波市と、昭和59年には米国マサチューセッツ州のアーリントンと友好姉妹都市提携を結びました。寧波市は中国上海市の近郊に位置しており、アーリントンは米国ボストンの近郊に位置する都市です。長岡京市も大阪・京都といった大都市の近郊に位置する衛星都市であり、そうした環境の類似から友好姉妹都市提携を結ぶに至りました。それ以降、多くの訪問団が相互に訪れ、文化の交流を深めています。国内では昭和59年に同じ「長岡」の名前を持つ静岡県伊豆長岡町（現：伊豆の国市）と友好姉妹都市提携を結びました。

先述のとおり長岡京市域は奈良時代の終わりごろに長岡京が造営された場所でした。そのため長岡京市が都市として発展していくにつれ長岡京の遺跡が発見されるようになりました。昭和29年に初めて長岡京の遺跡が、中山修一氏の手によって発掘され、それまで「幻の都」と呼ばれていた長岡京が「現の都」であることが証明されました。それ以降、市内の各所で長岡京に関する遺跡が発掘されています。平成28年には、乙訓古墳群が国指定史跡となり、長岡京市内からは恵解山古墳、井ノ内車塚古墳、井ノ内稲荷塚古墳、今里大塚古墳が指定されました。さらに、平成30年には長法寺南原古墳が追加指定されました。

交通の面では、平成7年にはJR神足駅が「長岡京駅」となり、平成9年からはJR長岡京駅の西口を中心として市街地の再開発事業が行われてきました。また、平成13年には阪急長岡天神駅に特急が停車するようになり、京都河原町方面・大阪梅田方面へのアクセスがより便利に、より早くなりました。さらに平成25年には、交通の結節点として、京都第二外環状線の長岡京I.C.と阪急「西山天王山駅」が開設、あわせて西山天王山駅に直結する高速バスの「長岡京バス停」が開業するなど、都市としての交通が発達していきました。

市内の都市化が進む一方で、長岡京市が誇る美しい西山の保全を行うため西山森林整備推進協議会が平成17年に発足し、平成21年には“環境の都”長岡京市環境都市宣言がおこなわれるなど、環境を保全する事業が行われてきました。

このように長岡京市は、歴史・自然・文化と共存しながら都市として発展を遂げてきました。

令和2年1月からは、明智光秀を主役とするNHK大河ドラマ「麒麟がくる」がスタートしました。大河ドラマをきっかけとして、光秀とその娘玉（ガラシャ）ゆかりの地のイメージを積極的に発信するとともに、まちのにぎわい創出に努めることで、歴史文化豊かな魅力あふれるまちづくりを推進します。